

ケースその1

【内容】エンジンオイル交換直後にエンジンから白煙が出て車が止まった

・車名：不明 ・登録年月：不明 ・走行距離：不明

息子が使用している車を、認証整備工場にてオイル交換して貰ったが、10km程走行したらエンジンから白煙が出て車が止まった。下をのぞいて見ると、エンジンの底に穴が開いていた。

整備工場に連絡すると、スタッフがエンジンオイルを持って引き取りに来た。エンジンオイルの入れ忘れではないかと思い、「入れ忘れではないか」と整備工場に聞くと、「入れ忘れは無い、きちんと入れている。入れてないと証明できるか?できるのなら保証する」と言われた。

引き取りに来た整備工場のスタッフは、エンジンオイル持参で引き取りに来ていたので、こちらが見ていない所でエンジンオイルの入れ忘れを誤魔化す為にこっそり入れたのではないかと思っている。

かなり不信に思うが、相談所はどう思うか意見を聞きたい。車は中古車を購入し、オイル・メンテ等エンジンの状況も不明。購入後、どの程度オイル交換していなかったのも不明。

【対応】

エンジンオイルが入っているか、入っていないかの問題は、現状入っているのであれば入っていたと考えられること、そしてその点を争われるのであれば、弁護士に相談をしていただく必要があることを伝えた。

聞いた限りでは、まず、エンジンが焼付いた事により、コンロッドがシリンダーブロックを突き破って穴が開いたのではないかと推測される。

その場合、原因はいくつか考えられるが、今回はエンジンオイル交換後という事なので主に考えられるものは二つあり、一つは『オイルの入れ忘れ』で、もう一つが『メンテナンス不良』。この二つをよく耳にするが、「オイルが入っていた」ということであれば、後者の『メンテナンス不良』ということが考えられる。

エンジンオイルの作用には、スラッジ等を流す洗浄作用がある。

オイル交換したことにより、この作用が働き、固着していたスラッジ類が洗浄作用により一気に流れ出し、エンジン内部の油路を詰まらせる事もある。エンジンの油路はとても細くなっている為である。

この現象は、エンジンオイルのメンテナンスを怠ったり、スラッジ等が堆積している場合に発生する。

人間で例えると、油路は血管に例えられ、コレステロールの塊が一気に流れると、血管が詰まってしまうのと同じことが起こると説明した。

「今回のお車はメンテナンス状況も不明なので、オイルを入れたか否かの話ではなく、抜き取ったエンジンオイルがどんな感じだったのか、また、オイル管理はどのようにされていたかを、息子さんも交えて整備工場と話をされてみても良いかと思う」と伝えた。以上のように対応し、その後連絡はない。

フロントサスペンションロワーアーム ASSY から異音が発生する場合の処置要領

低速での段差乗り上げ、低速操舵などでフロントサスペンションロワーアーム後側ブッシュのすぐり部から異音(ギュ・クシュ・ギシ)が発生する場合があることから、異音発生時の処置要領をご案内致します。

- 対象車種 B11 系(eK ワゴン、eK スペース)
B12 系(デイズ、デイズクルーズ)



図1. シリコングリース(上:三菱 下:日産)

■ 作業要領

- ① 异音が発生しているフロントサスペンションロアーム(図2)を取り外す。
(注) スタビライザーバー装着車の場合、スタビライザーリンクとスタビライザーバーの締結ナットを外してロワーアームを取り外す。スタビライザーリンク ASSY とロワーアームを結合しているセルフロックナット(再使用不可)は取り外さないこと。
- ② 後側ブッシュのすぐり部の汚れ(泥・砂など)を除去する。
- ③ グリースを刷毛又は手(指)に取る。
- ④ 図3の斜線部にグリースを塗布する。塗布指示範囲以外にはグリースが付着しないように注意すること。
(締結不良防止のため、締結座面、ボルト、ナットに付着させないこと。)
- ⑤ 処置したフロントサスペンションロアームを取り付ける。

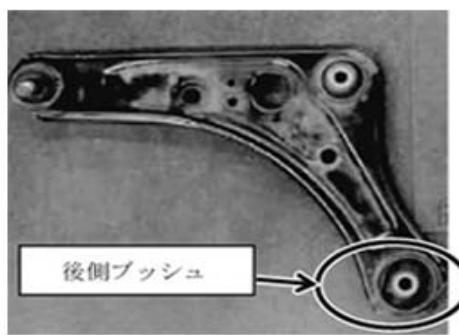


図2. ロワーアーム

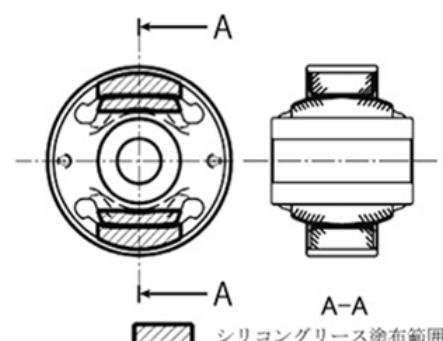


図3. 後側ブッシュへのシリコングリース

■ 作業終了後の点検

低速での段差乗り上げ、低速操舵などで異音が発生しないことを確認する。

■ 整備作業時の注意事項

作業に使用したシリコングリース(刷毛、手袋、作業者の手についたグリースも含む)は、電子部品のスイッチ等に付着した場合、導通不良などの異常が生じる可能性があるので、車室内に持ち込まないこと。
(シリコングリースが付着した手や手袋等で車室内を触れないこと。)